

2025年度 市民活動支援基金 選定委員【全体講評】

北星学園大学 経済学部 教授 | 鈴木 克典氏

市民活動支援基金の審査に携わらせていただいた北星学園大学の鈴木と申します。

このたびは、市民活動支援基金へご申請いただき、誠にありがとうございました。

ご提出いただいた申請書類を拝見し、いずれの団体におかれましても、それぞれの活動分野や地域において重要かつ必要なミッションのもと、強い信念をもって献身的に取り組まれていることが伝わり、心より敬意を表します。

申請団体の皆様の活動内容や資金状況を鑑みますと、正直なところ、すべての団体を採択としたいという思いに駆られました。しかしながら、基金には限りがございます。そのような中で、私といたしましては大きな葛藤を抱えつつ、苦渋の決断をもって審査に臨み、意見を述べさせていただきました（最終的な採択は、審査委員による慎重な熟議を経て決定しております）。

今回の審査にあたり、私個人としては以下のポイントを重視いたしました。

- ・資金の必要性：地域で重要な活動を継続する上で、どの程度資金が必要とされているか
- ・活動の必要性：当該地域において、その活動がどれほど不可欠であるか
- ・資金活用の明確性：資金の使途が具体的に示されており、その活用イメージが明確であるか
- ・今後の発展性：一時的な対応にとどまらず、活動の広がりにつながる基盤となるか

また、以下の観点も重要な視点として考慮いたしました。

- ・北海道ならではの活動であること：人口減少・少子高齢化、積雪寒冷といった地域特有の課題に対応しているか
- ・近年の喫緊の課題への対応：災害、SDGs、ジェンダー等、地域社会に大きな影響を与える問題に取り組んでいるか
- ・復旧・復興に関わる活動であること：一度停止していた活動であっても、地域における必要性・重要性が高く、再興されたものであるか

なお、今回の審査におきましては、書類のみでは各団体の活動の重要性や資金の必要性を十分に理解しきれなかった点もあったかと存じます。そうした意味でも、今回の結果にどうか懲りることなく、次回以降もぜひ申請をご検討いただければ幸いです。

最後になりますが、当基金が皆様の貴重な活動に少しでもお力添えできますことを心より願っております。

Co. DESIGN 代表 | 有坂 美紀氏

異なる分野や立場の人や地域を繋ぎ、協働で社会課題を解決するコーディネートの仕事をしております Co. DESIGN の有坂と申します。普段は、国連大学が認定する持続可能な開発のための教育に関わる地域拠点を道央圏で運営する「北海道 RCE 北海道道央圏協議会」や「北海道 NGO ネットワーク協議会」の事務局長などを務めながら、道内外の市民活動に関わっております。

このたびは、当基金にたくさんの応募をいただきありがとうございました。いずれの活動内容も地域の課題に即した興味深いものばかりで、各団体のホームページや SNS などを拝見するなど、応募書類以外の情報にも目を向けずにはられませんでした。皆さんの活動を知れば知るほど、道内各地で地道に活動されている様子が伝わってきました。同時に、私たちの社会は皆さんのような市民団体に支えられている部分も大きいと、改めてその重要性を感じました。

いずれの活動も意義深いものだと理解しておりましたので、選考には非常に苦労いたしました。審査を行う会議の場では、事業規模やテーマが異なる活動が対象となるため様々な観点から意見を出し合い、熟考を重ねた結果、採択団体を決めさせていただきました。

個人的に選考時に重視したのは、

- ・本基金が必要な理由：課題に対して資金の使途が説明されているか
 - ・団体の継続的な活動へ寄与するか：資金の効果が一過性のものではないか
 - ・地域社会への貢献や存続に寄与するか：地域における活動の重要性が説明されているか
 - ・協働の視点：活動によって社会のつながりが深まる／新たに生まれるものであるか
- といった部分です。

今回、ご応募いただいた団体の皆さんの思いや活動内容を聞かせていただき、非常に心強く感じました。こちらの理解が及ばずに残念な結果になってしまった皆さん、あるいは少額でも活動資金が必要な皆さん、新たなチャレンジを検討されている皆さん、次回以降の申請を検討していただければ幸いです。市民活動は、その取り組みの大小に関わらず、地域を支えるものであり、人々を繋ぎ、誰もが生きやすい社会を実現していくものでありますから、今後とも一緒に、より良い社会を作っていけたら嬉しいです。引き続き、どうぞよろしくごお願い致します。

認定 NPO 法人北海道 NPO ファンド 事務局 | 遠藤 千尋氏

今年度より、市民活動支援基金の事務局及び審査委員として関わらせていただきました、認定 NPO 法人北海道 NPO ファンドの遠藤千尋と申します。

この度は、それぞれの暮らしや仕事があるなかで本基金に関心をお寄せいただき、申請いただきまして誠にありがとうございました。今回は、長年活動を続けられてこられた団体さん、今年度より設立した新規の団体さん、再スタートをきった団体さん等、様々な経歴と共に活動をされてきた方々からご申請をいただいております。

本基金は北海道内で活動する団体さんを対象にしておりますが、みなさまご存知の通り北海道といってもかなり広く、地域特性によって課題の多様性や、必要とされている活動が多岐に渡ることをみなさまの申請書を通して、改めて実感いたしました。他の委員からも言葉としてあるように、正直どの団体さんも採択を…という気持ちに、私自身も駆られており、そのような中で、2人の委員とも重なる点もありながら、今回私が重視したポイントは以下の通りです。

- **資金使途の妥当性**：資金使途は自由ではありますが、どのようなことに活用をしたいかが明確に記載がされているか。また必要性があるかどうか
- **地域や社会への貢献や波及効果**：活用した先に、自団体への対処だけでなく受益者がきちんと活動を受取り地域や社会である生活者に届くかどうか
- **基金の目的に達するか**：越智基金の後継である本基金は、元々は遺贈寄付で造成された基金であるため、「市民活動で北海道を元気にしたい」という寄付者の想いと重なるかどうか
- **新規性・実施体制など**：特に活動を始めて間もない団体や任意団体は、他の助成事業の条件に満たない場合も多く（設立から3年以上等の制限がある等）申請のハードルも高いと感じられるときがあるかと思います。活動を始めて間もない時期は、その後の活動がどのように展開されていくのか（上がっていくのか、下がっていくのか）は、確かにこちらとしては予想が付きにくいですが、そういった団体さんこそ、個人的には応援したいという気持ちの中で、審査をさせていただきました。その他、他の委員の講評にも記載されております通り、それぞれの考え方を尊重し合いながらの判断となりました。

皆さまの活動はきっとそこに住む人たちや、各団体さんをつながりのある人たちにとっては必要で大切な活動であることと思います。ご自身がいて相手がいるからこそ、人と人が手を差し伸べ合いながら市民活動の輪が広がっていき、いま社会的に困難さを抱えている人にとって、もう少しだけ生きやすい世の中になっていけるような社会となるよう願っておりますし、その一助となっていけるよう私たちも努力して参ります。

次回以降も公募予定ではございますので、ぜひとも今回ご申請された皆様に限らず、ご検討いただけますと幸いです。